

2015年度プロボノ参加者アンケート集計(参加者21名のうち回答数19名)

参加動機

	項目	人数
1	誘われて	5
2	地域の為に何かしたい、ボランティアがしたい	0
3	スキルアップや自己啓発	1
4	NPOとの与信取引に役立つ	0
5	自分のスキルを活かしたい	0
6	NPOの活動内容を知りたい	2
7	前回よりも深く関わりたい	1
8	他業種と交流を持ちたい	3
9	SROI測定に興味があった	4
10	その他	3
合計		19

Q1.参加時間数

合計	平均
577	30

Q2.本プロジェクトに参加しての気づきや学び、感想を教えてください。

複数回答可

	項目	人数	%
Q2①	NPOと短期間で想いを共有することの難しさ	10	52.6
Q2②	第三者から意見をもらうことの大切さ	13	68.4
Q2③	相手の視点や立場、気持ちを理解した上で物事を考えることの大切さ	13	68.4
Q2④	NPOと地域との関わり	7	36.8
Q2⑤	NPOの実態や想い	8	42.1
Q2⑥	NPOと金融機関との考え方のギャップ	5	26.3
Q2⑦	他の参加者との考え方のギャップ	9	47.4
Q2⑧	団体の理念(誰のための何の事業か)の明確さの重要性	7	36.8
Q2	その他		

Q3.本プロジェクトを通して起こった変化について

4段階評価(1: そう思わない、4: そう思う)

	項目	合計	平均
個人にとって			
Q3(1)①	視野が広がった	71	3.7
Q3(1)②	多くの人との有意義な出会いがあった	69.5	3.7
Q3(1)③	地域の課題を知ることができた	60	3.2
Q3(1)④	地域を支えている実感が得られた	50.5	2.7
Q3(1)⑤	自分自身を振り返ることができた	60	3.2
Q3(1)⑥	積極性が向上した	56	2.9
Q3(1)⑦	地域や社会の課題解決に関わった	54.5	2.9
Q3(1)⑧	NPOの志に間近で触れることができた	66	3.5
仕事にとって			
Q3(2)①	調査・アンケート作成等、通常の業務では行わない業務の経験になった	65	3.4
Q3(2)②	課題解決に向けたプロセスを計画し、実践する能力が養われた	59	3.1
Q3(2)③	チームで取り組むプロジェクトの経験になった	64.5	3.4
Q3(2)④	話を訊く&聴く力が向上した	58.5	3.1
Q3(2)⑤	NPOに関する理解が深まった	68.5	3.6
Q3(2)⑥	仮説を立て、検証していくという思考プロセスが身に付いた	59	3.1
Q3(2)⑦	インプットした知識・ノウハウをアウトプットする機会になった	59	3.1
Q3(2)⑧	他の参加者へ知識やノウハウ等を教えた	58	3.1
Q3(2)⑨	他の参加者から知識やノウハウを教わった	65	3.4
Q3(2)⑩	所属組織内の人脈が広がった	48.5	2.6

Q3(2)⑪	所属組織外の人脈が広がった	58	3.1
Q3(2)⑫	定性面での目利き力が向上した	53.5	2.8
Q3(2)⑬	支援先の業界についての知識が得られた	62	3.3
Q3(2)⑭	SROI測定に関する知識やノウハウが得られた	61.5	3.2
Q3(2)⑮	プレゼンテーション能力が向上した	47	2.5

Q4.本プロジェクトの意義や価値

複数回答可

項目	人数	%	
参加NPOにとって			
Q4(1)①	ネットワークを広げることができる	12	63.2
Q4(1)②	参加者とのつながりができる	13	68.4
Q4(1)③	これまでの事業や今後を見直す機会になる	13	68.4
Q4(1)④	組織外への情報発信に役立つ	13	68.4
Q4(1)⑤	第三者からフィードバックがもらえる	7	36.8
Q4(1)⑥	伝えるトレーニングになる	7	36.8
Q4(1)⑦	地域住民の認知度や理解度が高まる	4	21.1
Q4(1)⑧	参加者の目線や考え方を知ることができる	10	52.6
Q4(1)その他			
地域にとって			
Q4(2)①	課題とその解決策が「見える化」される	10	52.6
Q4(2)②	“志金”が生まれるキッカケになる	7	36.8
Q4(2)③	地域の課題が少しずつ解決される	9	47.4
Q4(2)④	新しいコミュニティが生まれる	8	42.1
Q4(2)⑤	支援先や関わる人が元気になる	6	31.6
Q4(2)⑥	当事者としての意識が高まる	1	5.3
Q4(2)⑦	ボランティア等の参加を促すことができる	3	15.8
Q4(2)⑧	社会資源の発見・発掘になる	7	36.8
Q4(2)その他			
所属組織にとって			
Q4(3)①	情報・ノウハウ・人材の提供などにより、地域の活性化に貢献できる	13	68.4
Q4(3)②	NPOの考え方を知ること、支援ノウハウを確立できる	6	31.6
Q4(3)③	職員のスキルアップや自己啓発になる	11	57.9
Q4(3)④	地域をさらに知る機会になる	9	47.4
Q4(3)⑤	部署・支店間の交流の場になる	3	15.8
Q4(3)⑥	新たな顧客・連携先を創出する機会になる	10	52.6
Q4(3)⑦	所属組織のPRになる	5	26.3
Q4(3)⑧	新たな商品・サービス開発のヒントになる	5	26.3
Q4(3)⑨	新たな商品・サービス開発のヒントになる	10	52.6
Q4(3)その他			

Q4(3)その他

Q5.プロボノプロジェクトとして支援先にかかわっていく上で、下記の点は適切でしたか？

4段階評価(1: そう思わない、4: そう思う)

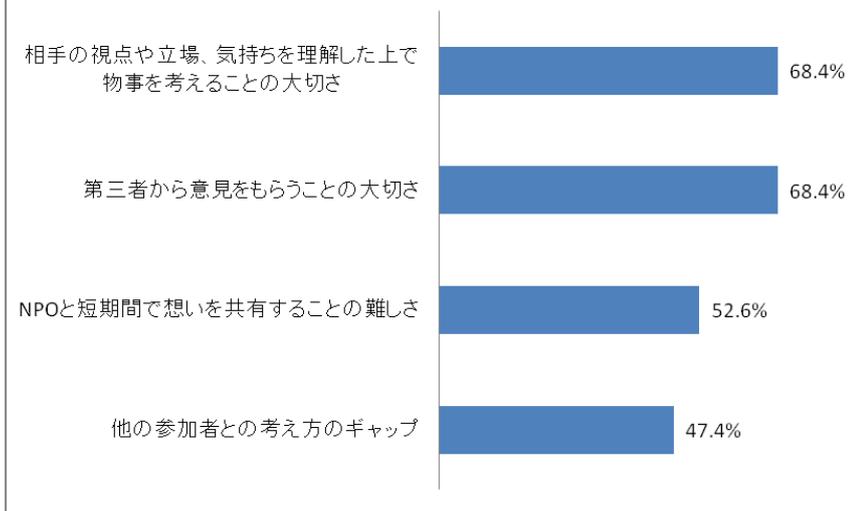
項目	合計	平均	
Q5①	定例ミーティングの時間(19:00~21:00)	65	3.4
Q5②	定例ミーティング会場(名古屋研修センター)	58	3.1
Q5③	関わる期間(半年間)	64	3.4
Q5④	関わる時期(7月~1月)	59.5	3.1
Q5⑤	集まる回数(個別ミーティングを含め月1回程)	59.5	3.1
Q5⑥	チーム人数	68	3.6
Q5⑦	チームのメンバー構成	60.5	3.2
Q5⑧	テーマ(SROI測定)	64	3.4
Q5⑨	支援先	59	3.1
Q5⑩	作業量	53.5	2.8

Q7

項目	合計	平均	
Q6	今回のプロボノプロジェクトでの経験は、あなたにとって100点満点で何点でしたか？	1321	69.5

2015 年度プロボノ参加者アンケート(分析)

参加しての気づきや学び

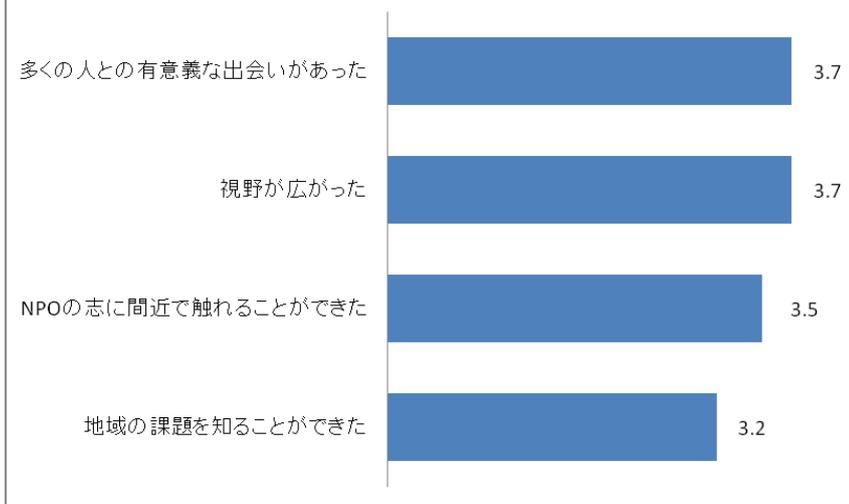


相手の視点に立つことや第三者からの意見をもらうことの大切さを学んだという参加者が多く見られた。

一方、参加 NPO や参加者間での相互理解の難しさを経験したという参加者も見られた。

複数の参加機関が参加していることによる、メリットとデメリットが反映された結果と考えられるので、次年度以降のプログラム構成の参考にしたい。

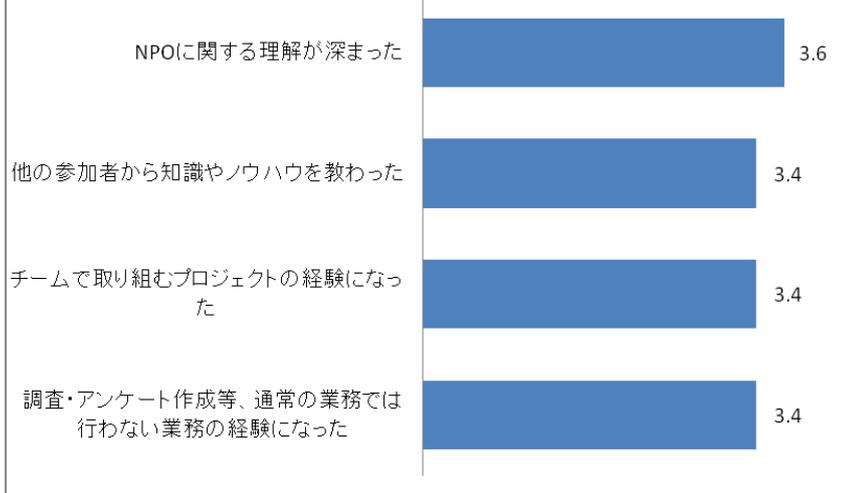
プロジェクトを通して個人に起こった変化



有意義な出会いがあった、視野が広がったという参加者が多く、本プロジェクトが、新たなネットワーク構築の機会になったことがうかがえる。

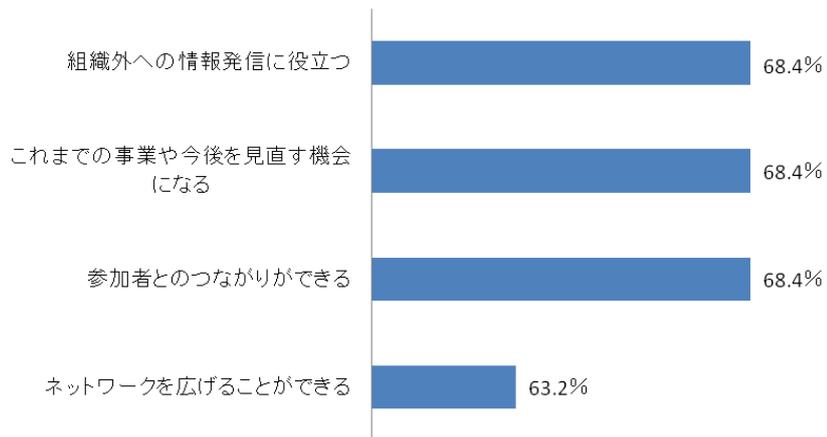
また、NPO の志に触れる事ができた、地域の課題を知ることができたことをあげた参加者が次いで多いことから、本プロジェクトが、地域の課題解決への参加の一步となった参加者が多かったことがわかる。

プロジェクトを通して仕事に起こった変化



NPO に関する理解が深まったとした参加者が多かったことから、普段関わることが少なかったNPOと、業務として関わる機会を考えるきっかけとなったことがわかる。次いで、他の参加者から知識やノウハウを教わった、チームで取り組むプロジェクトの経験になった、との回答が多く、本プロジェクトが、参加者の業務上のスキルアップにも少なからず貢献したといえる。

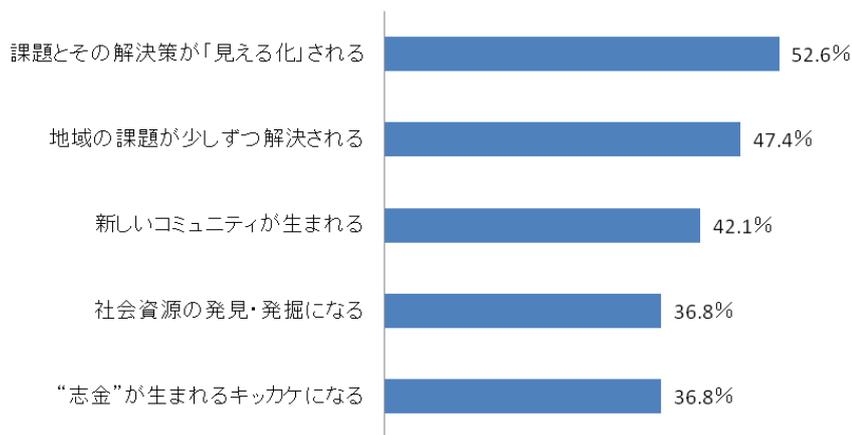
参加NPOにとってのプロジェクトの意義や価値



組織外への情報発信や、参加者とのつながりができるという回答が多かったことから、本プロジェクトが参加 NPO のネットワーク拡大につながったといえる。

また、これまでの事業や今後を見直す機会になるとの回答も同数あり、本プロジェクトが、価値を測るだけでなく、事業そのものを振り返る機会にもなっていることがわかる。

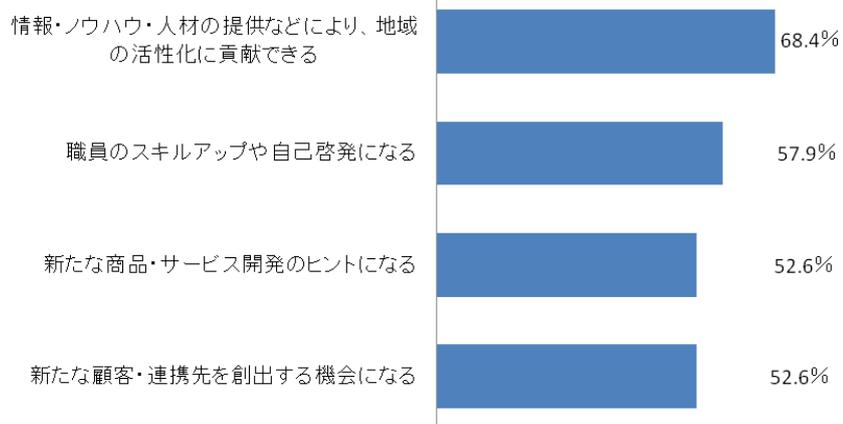
地域にとってのプロジェクトの意義や価値



課題とその解決策が「見える化」される、少しずつ解決される、との回答が多かったことから、本プロジェクトで参加NPOの SROI を測定することが、地域の課題発掘と解決に少なからずつながったといえる。

また、新しいコミュニティの形成も生まれつつあり、それにより、課題解決のさらなる促進が期待されるといえる。

所属組織にとってのプロジェクトの意義や価値



7割弱の参加者が、地域の活性化に貢献できると回答しており、本プロジェクトに参加すること＝所属組織の社会貢献活動につながると捉えている参加者が多数いることがわかる。

また、半数以上の参加者が、新たな商品・サービス開発のヒントや顧客・連携先創出の機会となると回答していることから、社会貢献だけでなく、本業にも良い影響を及ぼすことが期待されるといえる。